



平成22年度東京大学大気海洋研究所共同利用研究 日本列島周辺域に分布するテフラのデータベース整備にむけて

火山国である日本周辺には、爆発的噴火の産物であるテフラが多数分布します。過去に噴出し堆積物中に保存されているテフラは、第四紀編年、古環境復元、地形変化史、火山噴火史、考古編年など様々な分野で指標として用いられています。日本のテフラの研究史は長く、日本列島における上記研究分野の特徴となっています。ところで、各種地球科学分野のデータベースが急激に整備されつつあるにもかかわらず、テフラ研究分野では紙媒体で研究が進められているのが現状です。一方で、個人研究レベルで、テフラのデータベース化が試みられている場合もあります。本研究集会では、テフラのデータベース化に関する情報交換を行い、本格的なテフラのデータベース整備を模索します。

日時：2011年1月11日（火）～1月12日（水）（2日間）

場所：東京大学大気海洋研究所 講堂（収容人員約140名）

東京大学 柏キャンパス 千葉県柏市柏の葉5-1-5

会場へのアクセスは<http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/about/j/map.html>をご参考下さい。

参加費：無料（事前登録は必要ありません、直接会場においで下さい）

懇親会：1日目夕方に大気海洋研究所内にて開催します（懇親会参加費：一般：4000-5000円 院生・学生：2000円程度）。1月5日までsuzukit@tmu.ac.jpへ連絡下さい。

1月11日

1日目：最近のテフラ研究の動向

座長：森脇 広

10:40-11:00 シンポジウム趣旨説明：日本列島のテフラ研究の概要

鈴木毅彦（首都大）

11:00-11:40 日本列島周辺の深海底に分布するテフラ

青木かおり（立正大）

11:40-12:20 MIS3～2の日本列島における陸生大型哺乳動物の絶滅

岩瀬 彬（首都大）

昼食休憩

座長：青木かおり

13:10-13:40 MIS3以降のグローバルな層序の中で日本のテフラを位置づける方法の提案とその意義

三浦英樹（極地研）

13:40-14:20 過去3万年間の自然史・人類史の高精度編年に果たすテフラの役割
ー日本の高精度編年フレームワークの構築に向けてー

森脇 広（鹿児島大）

休憩

座長：鈴木毅彦

14:30-15:10 テフロクロノロジーと火山地質学

及川輝樹（産総研）

15:10-15:50 北海道東部、阿寒・屈斜路・摩周カルデラの噴火史

長谷川 健（茨城大）

15:50-16:30 斜長石斑晶の屈折率を用いた火山噴出物の同定法：榛名・浅間火山を例に

大石雅之（首都大）

16:30-17:00

討論

17:20-19:20

懇親会（大気海洋研究所内）

1月12日

2日目：テフラデータベース構築に向けて：隣接分野の状況とテフラ研究への適用

隣接分野におけるデータベース

座長：森脇 広

10:00-10:20 シンポジウム趣旨説明：テフラデータベースの構築にむけて

鈴木毅彦（首都大）

10:20-10:50 JAMSTECのコア試料キュレーションについて

富山隆将・町山栄章・佐川優子（JAMSTEC）

10:50-11:20 JAMSTEC海洋底岩石サンプルデータベース「GANSEKI」

市山祐司（JAMSTEC）

11:20-11:50 産総研の活断層データベース

吉岡敏和（産総研）

昼食休憩

テフラのデータベース化

座長：鈴木毅彦

13:00-13:30 降下テフラによる火山災害リスク評価

中村洋一（宇都宮大）

13:30-14:00 テフラGISや地理空間情報を活用した火山防災研究

小荒井衛（国土地理院）

14:00-14:30 我が国の降下火山灰データベースの試作とその応用

須藤 茂（産総研）

14:30-15:00 『J-Tephra』の現状と発展に向けた試み

平中宏典（新潟大）

15:00-15:30 テフラのデジタルデータベース

坂本竜彦（JAMSTEC）

15:30-16:00 コメント 及び 討論

世話人：長岡信治・鈴木毅彦・青木かおり

問い合わせ先：

コンピーナー：鈴木毅彦、首都大学東京大学院都市環境科学研究科、suzukit[at]tmu.ac.jp

大気海洋研対応者：横山祐典、東京大学大気海洋研究所海洋底科学海洋底テクニクス、yokoyama[a]aori.u-tokyo.ac.jp